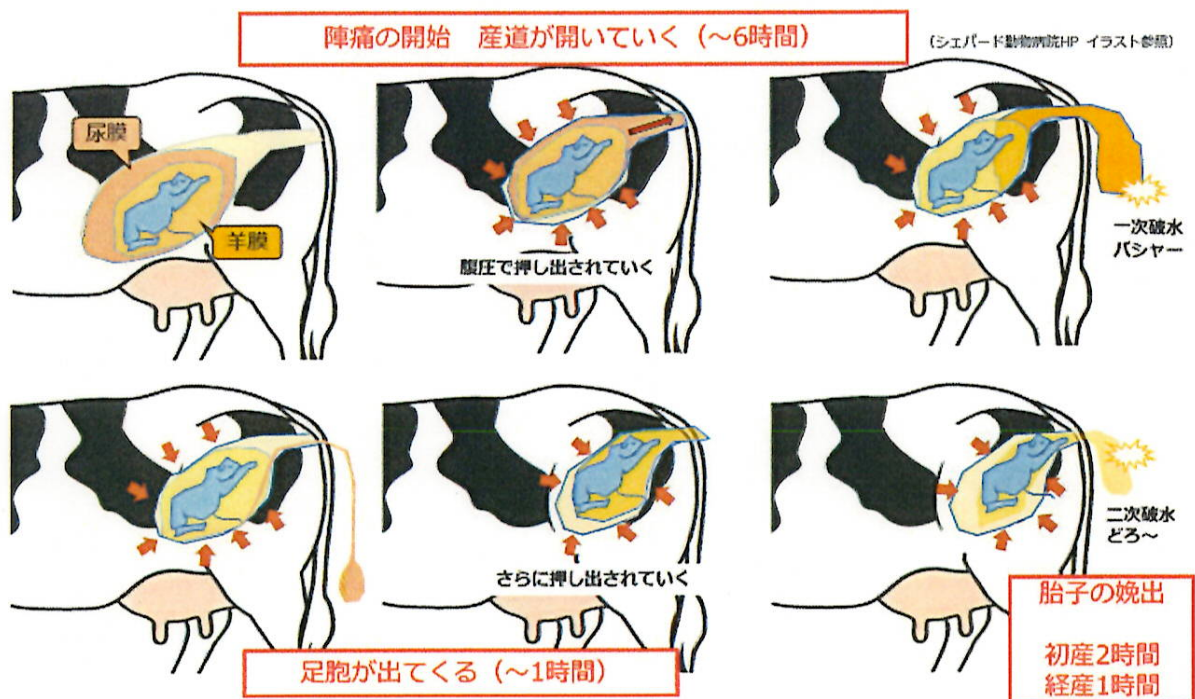


～ お産の流れと介助のタイミング ～

今回は現在帯広で酪農コンサルタントとして開業されている石井三都夫先生よりご教授いただいた酪農場でのお産の介助のタイミングについてご紹介します。

- お産介助の基本は「**とにかくじっくり待つ!**」

お産介助で大事なことは無理をして引っ張らないことです。むやみやたらと引っ張れば引っ張るほど胎子は衰弱し、母牛の子宮は傷ついていきその後の周産期病を誘発していきます。そうは言ってもいざお産が始まれば我慢して待つのが難しい人もいるのでは?そこで正常なお産の流れとかかる時間を見てみましょう。



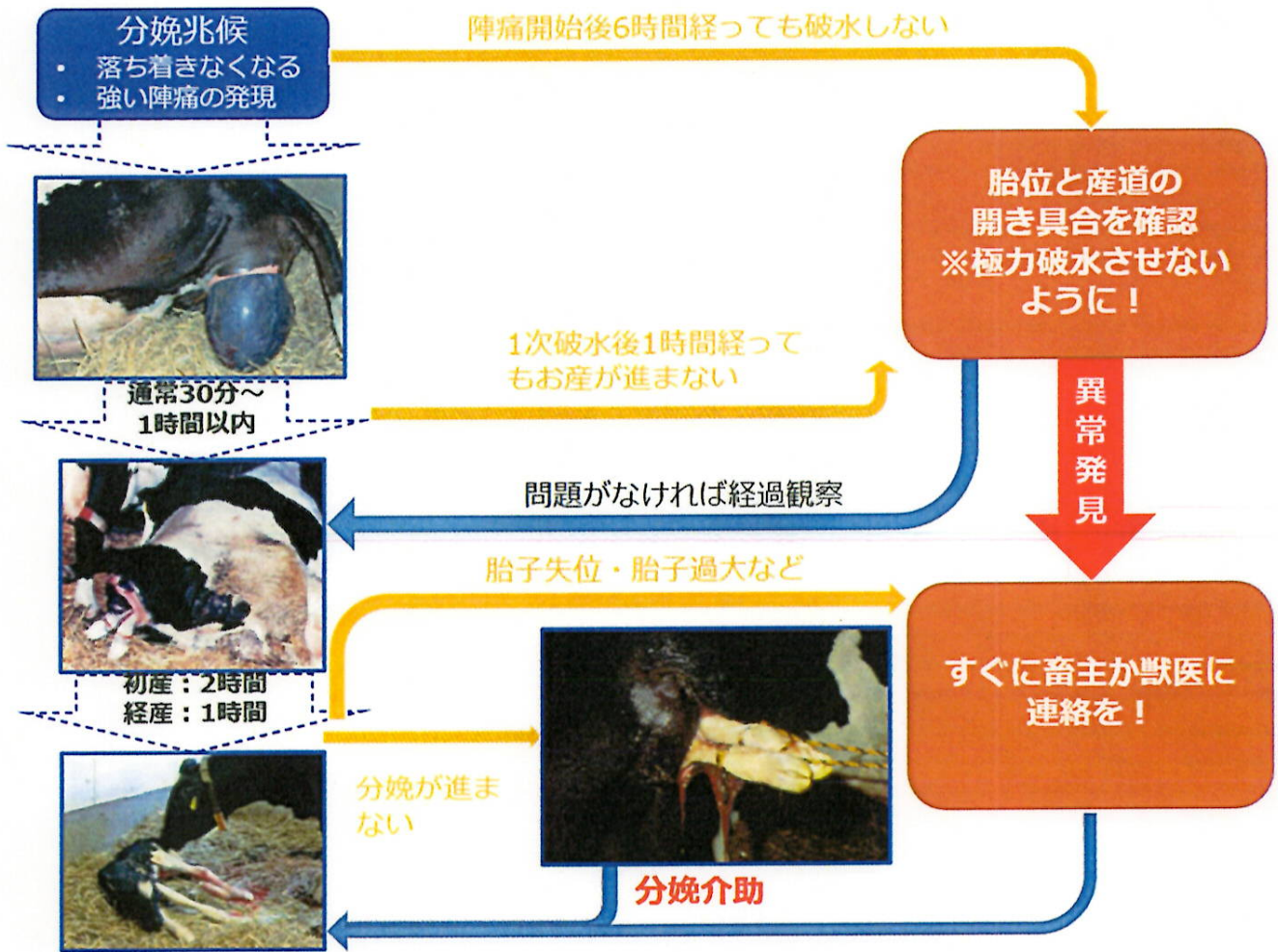
胎子は母牛のお腹の中では尿膜と羊膜と呼ばれる2つの膜に覆われています。まず陣痛が始まるとオキシトシンが分泌され子宮収縮が始まり、少しずつ外側にある尿膜が産道を広げていって胎子の分娩の通り道を作っていきます。尿膜は薄くて破れやすいため陰部の外に出てくると間もなく破れて水がドシャッと出てきます。お産が始まっていて中を確認するために陰部に手を入れたときに人為的に一次破水を起こしてしまった経験がある人もいるのではないのでしょうか?胎子の通り道ができる前に一次破水させてしまうのは危険ですので慎重に手を入れるようにしましょう。この時期、イラストでは胎子はお腹を下にしていますが、実際は背中を下にした仰向け状態か、横向きの状態になっていることが多いです。初期陣痛で手を入れて胎子の蹄を触ると上を向いているように触知され、胎子が逆さに向いていると焦らないように注意しましょう。陣痛開始から一次破水が終わるまでにだいたい6時間くらいはかかります。

その後さらに陣痛と子宮収縮が進んでくると、羊膜と一緒に胎子が回転しながら頭を上にして産道に進入して徐々に足胞が出てきます。一次破水から足胞までだいたい1時間くらい。そこから二次破水が起



こります。羊膜の二次破水は一次破水とは違ってドロツとした羊水が出てきます。これが産道をぬめらせて胎子の滑りをよくさせます。足胞が見えてから二次破水を起こすまでの時間はけっこう個体差がありますが、足胞が見え始めて 30 分くらい経ったらまたは二次破水後一度手を入れてみて産道の開き具合や胎子生死、失位の有無などを確認すると良いでしょう。胎子に活力があり、失位がないことが確認できたら**経産牛で 1 時間、初産牛では 2 時間**は介助せず（引っ張らず）待つべきです。

● お産介助のフローチャート



分娩異常の判断基準

こんなときは畜主か獣医に連絡して責任を押し付けよう♪

1. 最初の陣痛が始まってから6時間経っても破水しない
陣痛微弱・胎子失位・子宮捻転・陣痛以外の疝痛
2. 1次破水の後、1時間経っても足胞が出てこない
陣痛微弱・胎子失位
3. 足が見えてから初産で2時間、経産で1時間経っても胎子が産まれない
陣痛微弱・胎子過大・胎子失位・産道狭小
4. 陣痛の間隔が5分以上に延長する、または30分以上分娩が進まない
陣痛微弱・胎子過大・胎子失位・産道狭小